

癌化学療法レジメン登録書

レジメン名	Pembrolizumab+EC
対象疾患	ホルモン受容体陰性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌における術前薬物療法
1クールの日数	21日
目標コース数	4コース

	抗がん剤名	略号	1日投与量	単位	投与方法	投与時間	投与日
1	キイトルーダ		200	mg/body	div	30分	d1
2	エピルビシン	EPI	90	mg/m ²	div	全開	d1
3	エンドキサン	CPA	600	mg/m ²	div	30分	d1
4							
補足	エピルビシン生涯投与総量600mg/m ² までを標準とする（限界は800mg/m ² ） Pembrolizumab+PTX+CBDCA終了後より開始						

催吐リスク	高度
前投薬	パロノセトロン注0.75mg、デカドロン注9.9mg、アロカリス注235mg
減量規定	キイトルーダ：減量規定なし エピルビシン、エンドキサン：好中球減少(Grade3以上)、発熱性好中球減少(Grade3以上)、血小板減少(Grade1以上)、悪心・嘔吐(Grade3以上)、粘膜炎又は口内炎(Grade3以上)などで減量基準あり 減量目安：エピルビシン 1段階減量…72mg/m ² 、2段階減量…中止 エンドキサン 1段階減量…480mg/m ² 、2段階減量…中止
主な副作用	骨髄抑制、悪心・嘔吐、食欲不振、倦怠感、掻痒症、発疹、末梢神経障害、脱毛、関節痛・筋肉痛、口内炎、便秘・下痢、肝機能障害、出血性膀胱炎 ※注意を要する副作用 間質性肺疾患、大腸炎、肝機能障害、腎機能障害、内分泌障害(下垂体炎、症候性の内分泌障害、甲状腺機能障害、高血糖、1型糖尿病)、infusion reaction、心筋炎、脳炎、ギランバレー症候群
参考文献	適正使用ガイド(キイトルーダ)、添付文書・IF(エピルビシン、エンドキサン) N Engl J Med 382,810-821(2020) 乳癌診療ガイドライン2022年、制吐薬適正使用ガイドライン2023（日本癌治療学会）
その他	キイトルーダ：インラインフィルター使用 キイトルーダ：最終濃度1~10mg/mLに調製

投与スケジュール

Day (1)			
滴下順	手技・薬品名・規格	用量	投与時間
1	点滴末梢 メイン1 生理食塩液250mL 1日1回 (持続)	1本	持続
2	点滴末梢 メイン1側管1 生理食塩液100mL キイトルーダ注 1日1回 インラインフィルター使用	1本 200mg	30分
4	点滴末梢 メイン1側管1 生理食塩液50mL 1日1回	1本	全開
3	点滴末梢 メイン1側管1 パロノセトロン注バッグ0.75mg デカドロン注6.6mg デカドロン注1.65mg 1日1回	1本 1本 2本	15分
4	点滴末梢 メイン1側管1 生理食塩液100mL アロカリス注235mg 1日1回	1本 1本	30分
5	点滴末梢 メイン1側管1 生理食塩液50mL エピルビシン注 1日1回	1本 90mg/m ²	全開
6	点滴末梢 メイン1側管1 生理食塩液100mL エンドキサソ注 1日1回	1本 600mg/m ²	30分